豊崎中

確かな学力の向上を目指し、見通しをもって学習に取り組む生徒の育成

（３年計画の１年次）

校長　　横　濵　由　紀

１　研究主題について

昨年度の研究成果と課題は以下の通りである。

成果として

・教師が教える場面と生徒が考える場面、まとめる場面の組み立てを工夫することで、生徒の深まりを図ることができた。
・全教員による道徳の授業実践を通し、学び合いの質の向上と生徒が議論し探究するための技能と態度の育成を行うことができた。実践が教科や行事、係活動など他の活動にも活かされた。
・全教員が公開授業を行うことで、お互いの授業を見合うことができ、授業改善に役立った。

課題として

・生徒から出てきた問いで課題を設定するために、生徒の「なぜだろう」を引き出す導入の工夫が必要である。
・指導と評価の一体化を図るために、主体的に取り組む態度の適切な評価のための研修が必要である。
・探究的な学びを推進するために、総合的な時間を柱とする計画の見通しが必要である。

そこで今年度は、①自分の意見を発表する、②見通しをもつ、③将来の夢や志をもつの３本の柱を中心に授業改善に取り組むことにした。

そのために、学校目標を「見通しをもって進んで学び創造する生徒の育成」と設定し、
①見通しと深い学びを創り出す取組～「授業づくり」
②諸活動では話合いを進んで行い、自己有用感をもつ場面を創り出す取組～「絆づくり」
③夢や志の実現に向け自己の未来を創り出す取組～「居場所づくり」
の３つの具体的な施策を掲げ、「発信し、繋げる」というテーマのもと、全職員が力を合わせ、本校の研究主題の達成に迫っていきたい。

２　研究のねらい

確かな学力の向上を目指し、見通しをもって学習に取り組む生徒を育成するため、各教科・領域の特性を踏まえた授業改善を具体的に進め、生徒が主体的に学びに向かうための指導法を研究する。

３　研究仮説

(1) 学習課題を明確にし、協働的に学び合う場面を設定することで考えを深めることができる。
(2) 話合い活動を通して、自ら主体的に学ぼうとする意欲や態度を育成できる。
(3) 発問の工夫と見通しをもった授業展開を取り入れ、生徒が「わかった！できた！身についた！」を実感することができる。

４　研究内容

(1) 確かな学力を育むために、教師の授業力の向上を図る。
ア　授業の導入や教師の発問を工夫することで生徒の気づきを喚起する。
イ　TO DOリストを活用し、見通しをもった学習展開を心がける。
ウ　ユニバーサルデザインやICTを活用し、わかる授業づくりを推進する。

(2) 話合いを基に一人一人の考え方や意見を繋げ、お互いに「自己有用感」を実感させる。
ア　インプットとアウトプットを積極的に行い、自分の考えを確かなものする。
イ　興味・関心、必要性をもたせる教材の提示を工夫し、生徒の問いや発言を大切にする。
ウ　自力解決の場と対話・交流の場を通して折り合いをつけ、自分の考えを発信させる。

(3) 夢や志の実現に向け、自己の未来を創り出すことができる生徒の育成を図る。
ア　全校道徳やキャリア教育を推進することにより将来の自分像を描き、具体的な目標を抱かせる。
イ　少人数学級のメリットを生かして、一人一人の特性を生かし、全職員で個別指導の充実を図る。
ウ　基礎的な知識・技能を生かし、自ら問題解決に取り組もうという意識を育てる。

以上の実践を実効性のあるものにするために、全員が授業公開し、授業技術の向上を目指す。

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	学年・授業者等	全体会等
12	6	教科：社会（１学年）　　授業者：工藤　隆敏	

		題材：南アメリカ州～ブラジルの開発と環境保護
12	7	教科：保体（全学年）　　授業者：尾崎　元子　　題材：卓球
12	8	教科：国語（２学年）　授業者：白戸　栄治 題材：形容詞・形容動詞の活用
12	9	教科：英語（１学年）　　授業者：丸屋　百合奈 題材：L5 Discover Japan～ 過去形の導入
12	14	教科：英語（２学年）　　授業者：江戸　誠一郎　　題材：L6　Tea from China
12	15	教科：理科（１学年）　　授業者：大嶋　知子 題材：力の大きさとばねの伸びの関係
12	19	教科：数学（２学年）　　授業者：伊藤　広哉 題材：図形の調べ方～多角形の角（へこみのある図形）
		教科：音楽（全学年）　　授業者：沢口　美津子　　題材：歌合戦リハーサル

(2) 一般研修

月	日	内容・講師・概要等
4	13	第１回校内研修　・指導案検討会
5	25	第２回校内研修　・NRT の分析　・計画訪問の授業の振り返りと今後の指導
7	6	要請一般研修 ・1人１台端末時代の情報セキュリティ＆モラル 講師：総合教育センター　主任指導主事　石井　一二三　氏
	9	教育研究指定事業～特別支援教育に関する研修～ 講師：山形大学教職大学院　特別支援教育分野教授　三浦　光哉　氏 演題：中学校における発達障害等の理解と対応 保護者講演会：思春期の子供との向き合い方～保護者が今すべきこと～
7～8月		中学校教育課程研修集会への参加（オンライン）
8	4	小中JSにて教育講演会 講師：八戸警察署　生活安全課　課長　小山内　信也　氏 講義：「児童生徒に関わるネットトラブルの実際」 演習：「ネットトラブルへの対応について」
9	21	要請一般研修　・問題解決的な学習を取り入れた授業づくり ～導入から課題設定まではどうあればよいか～ 講師：八戸市教育委員会　教育指導課　主任指導主事　福田　秀貴　氏
10	5	要請一般研修　・生徒一人一人のために～発達障害等の理解と支援～ 講師：こども支援センター　指導主事　川野輪　美穂　氏
11	22	校内研修　・学びの地図を作ろう～学校ビジョンについて～ ～学校は職員・生徒・保護者・地域でできている（SWOT分析）～

６　研究の成果

(1) 「発信し、繋げる」をキーワードに、全教員が道徳の授業と教科の公開授業を実施することにより、教師間の指導力の向上と授業改善が見られた。
(2) 自力解決と対話交流の場やTO DOリストの活用により、生徒たちの学び合いと気づきを大切し、お互いの自己有用感を高め、見通しをもちながら校内行事や探究学習に取り組んだ。
(3) 導入や発問の工夫、課題設定の工夫、ICTの活用等により、生徒は「わかった、できた、身についた」を実感し、主体的に学習に取り組むようになった。

７　研究の課題

(1) １人１台端末時代において、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化を図るために、クロームブックの効果的な活用法について研修を深める必要がある。
(2) 個別の学習支援が必要な生徒に対して、全職員で個々の生徒の特性を生かして、段階的に支援体制を築き、基礎的な知識・技能を習得させる必要がある。
(3) 将来の夢や志の実現に向けて、生徒たちが目標を抱き、具体的に行動しようという意識を高めるために、３年間を見通したキャリア教育の実践が必要がある。

（記入者　　江戸　誠一郎）